

土壌医 × I T 技術

NECフィールドディング株式会社
芹澤 健久

1. アグリビジネスの模索

私は農学部出身でありながら、今のIT企業に就職しました。たまたま受けた情報処理技術者試験に合格し、当時はインターネットが普及し始めたこともあり、アグリ関連企業よりIT企業のほうに心が傾いていた時期でした。

会社では社内SEを経たあと、お客様システムの構築に携った一方、個人ではバイオインフォマティクスの資格取得やアグリ関連の研修会参加等、事あるごとにバイオ系の知識に触れてきました。

その間、社会では、農業にIT技術を取り込み、農業生産を効率化しようとする農業ICTの動きが高まり、当社でもアグリビジネスの検討が始まり、私もそのプロジェクトに参画するようになりました。

2. 土壌医検定試験との出会い

アグリビジネスの模索の中、神保町にある会社との打ち合わせ後、その帰りに農文協の農業書専門書店に立ち寄りしました。「ITで農業を効率化」と言っても、実際農業経験も無いし、農学部で得た知識もほとんど残っておらず、根本的な農業技術が無ければそのプロジェクトは上手くいかないことを痛感していた頃でした。

その書店で偶然見つけたのが、土壌医検定試験のパンフレットでした。「樹木医」はこれまでメディアで聞いたことがありましたが、「土壌医」はその時初めて知りました。

この資格の勉強で体系的な知識がアップデートできるのではないかと思い、早速受験することにしました。

3. 2級合格までの道のり

3級から取得を目指しましたが、いざ勉強してみると、大学で得た知識が1つも出てきません。25年も前のことなのでほとんど忘れてしまったということもありますが、唯一、土壌学の講義で出てきた「団粒構造」くらいしか知っている知識が無かったと思います。

3級は過去問とその解説を中心に勉強してなんとか合格しましたが、2級となるとそんなに甘いものでなく、生半可な知識では太刀打ちできません。

「本当にその知識が自分のものになっているか・・・」60分で60問という2級試験がそれを物語っているようです。

結局2級は、4回目でようやく合格に至りました。1回目2回目は相変わらず過去問を解いただけの勉強でしたが、3回目4回目は首都圏土壤医の会が開催する「受験対策講座」を受講し、計画的な勉強ができました。

そもそも私は脳性麻痺のため、問題冊子のページめくりや解答用紙のマークに時間が掛かりますが、それ以上に解答に迷う時間が多く、全問解答できないことが続いていました。「解答に迷う」ということは、まさに「知識が自分のものになっていない」ことを意味しています。

それには薄々気づいていましたが、4回目の受験勉強の際には単なる暗記ではなく「何故そうなるか」を意識して理解することに集中し、さらに即答を心掛ける問題練習も繰り返ししました。

その結果、いつも10問以上未回答で終わっていた試験が、4回目は試験終了5分前に全問解答できました。

4. 今後の展望（野望）

会社でのアグリビジネスプロジェクトは一旦終了しましたが、今後も首都圏土壤医の会を通じて研鑽を続け、社会貢献に繋がる活動をしていければと思います。

また、現在、農業生産の効率化に関する様々なアプリケーションが開発されている中で、特に土壤に関するアプリケーションはまだまだ開発途上ようです。

そこで、少なくとも土壤医をサポートするアプリケーションの開発等に関わっていくこともできれば・・・という秘かな野望もあります。例えば、今は夢物語かもしれませんが、医者がMRI画像を基にして手術や治療を行うように、土壤状態を立体的に可視化できるツール使って、土壤医が処方箋やアドバイスができると良いですね。

いずれにしても、これからも緑と関わる時間を多く持っていきたいと思っています。

